



市 政 執 行 の

所 信 表 明

令 和 4 年 5 月

名 寄 市

【はじめに】

本日、令和4年第2回名寄市議会臨時会の開会にあたり、市民の代表である議員各位を前に、私の4期目の市政運営にかかる所信の一端を申し述べる機会をいただきますことに、心から感謝申し上げます。

このたびの市長選挙におきまして、無投票という結果で再選を果たすことができましたことは、市民の皆様のおかげとご支援の賜物であり、身に余る光栄であります。私の3期12年間の取組に対する評価と、コロナ対策などの現下の課題解決をはじめ、今後の市政運営に対する期待感の表れと受け止める一方で、無投票であったことや、コロナ禍において市民の皆様と接する機会などが制約されてきたことを踏まえ、改めて市民との対話を重視し、協働のまちづくりに向けて、粉骨砕身その責任、職責を全うしてまいります。

私は、市長就任以来、総合計画を市政運営の中心に据えながら、民間出身としての視点や発想、これまでの人脈、そして行動力を活かしたトップセールスと市民との協働により、先人が培った歴史や文化、財産を磨きつないでいく思いを胸に、市内外への情報発信に努めるとともに、市民の満足度の向上、明るく元気なまちづくりに向けて、全力を傾注してまいりました。

この間、市民の皆様を安全を最優先に様々な感染防止と経済循環

との両立に取り組んだコロナ対策にご理解・ご協力を頂きましたことに感謝申し上げます。また、市民の皆様には多大なご心配とご迷惑をおかけしました名寄振興公社と名寄市社会福祉協議会の不適切な事案については、改めてお詫びを申し上げるとともに、特段のご理解とご尽力いただきました議員各位をはじめ、市民の皆様に、重ねて感謝を申し上げます。

【3期目の取組について】

私は、3期目就任時の所信として、本市の財政状況は地方交付税に大きく依存する弾力性の低い財政構造となっており、今後も人口減少や高齢化の進展により税収が減少する一方で社会保障関連経費は引き続き増加する見込みであり厳しい財政運営が予想されることから、健全な財政運営を基調に、北・北海道の中核都市として都市機能を強化しつつ、市民との協働のまちづくりを推進するため、総合計画の基本理念である「人づくり」「暮らしづくり」「元気づくり」の3つのまちづくりの理念を基本とし、市政運営にあたることを表明いたしました。

まず、「人づくり」では、官民連携で組織するNスポーツコミッションを設立し、ジュニア選手育成強化やスポーツフード開発を行ったほか、この地の強みを活かした冬季スポーツ大会・合宿の誘致

を推進するなど冬季スポーツの拠点化に向けた取組を展開してまいりました。

地域コミュニティの醸成では人と人、地域のつながりをより強いものとするため、自主防災組織の拡大に努めるとともに市内全小中学校へコミュニティスクールを導入しました。

また、東風連駅を名寄高校駅と改名し設置したことにより名寄高校通学生の利便性向上及び高校の魅力アップや利用促進が図られました。

名寄市立大学では、地域に求められる専門職の養成と卒業生の地元定着化に向けた取組を行うとともに、コミュニティケア教育研究センターを地域と大学の架け橋とし地域課題の解決に向けた取組を推進してまいりました。

陸上自衛隊名寄駐屯地とヤマト運輸株式会社に協力いただき、物資輸送を伴う広域防災訓練を実施し大規模自然災害に備えた防災体制の強化を図りました。

次に「暮らしづくり」では、子育て支援政策を加速すべく、公設保育所の改築、民設保育所設置への補助、子どもたちが屋内で安心して遊び交流できる「にこにこらんど」の開設、小学生の通院に係る医療費を全額助成とする乳幼児等医療費給付事業の拡充などに取り組みとともに、名寄市立総合病院の発熱外来のプレハブ設置、人

工呼吸器などの医療機器更新、自動精算機導入のほか、名寄市医療介護連携情報共有ICTネットワークが稼働し、より安心して暮らせる医療環境を整備してまいりました。

また、福祉灯油など低所得者の冬の生活支援、高齢者を対象とした「除雪」の支援対象者の維持・拡大、基幹相談支援センター「ぽっけ」の設置などの福祉施策、国のGIGAスクール構想の実現に向けた小中学校一人一台端末の導入とICT環境の整備、市税等キャッシュレス決済・コンビニ収納導入事業などデジタル関連事業にも取り組みました。

最後に「元気づくり」では、コロナの影響により一部思うような取組が進まないものもありましたが、人口減少や人材不足が進む中、地域おこし協力隊などの外部人材を活用した担い手対策に加えて、地域の仕事を組み合わせることで年間を通じた仕事を創出するため「なよろ地域づくり事業協同組合」の創設支援に取り組みました。

また、農地の区画整理や暗渠排水の整備、基幹用水路整備を進めるとともに畜産振興につながる畜産クラスター事業の推進による哺育・育成センターの設立支援や薬用植物の産地化に向けて企業版ふるさと納税を活用した新たな事業にも着手してまいりました。

さらには、アフターコロナを見据えた名寄市観光振興計画（第2

次) を策定するとともに、名寄ピヤシリスクー場の小中学生のリフト料金無償化、研修施設である「なよろ温泉サンピラー」温浴施設等の改修に着手し、交流人口・関係人口の拡大に向けた取組を推進してまいりました。

平成31年度(2019年度) からを計画期間とする名寄市総合計画(第2次) 中期基本計画では、3つの重点プロジェクトに加えすべての主要施策に、数値目標を導入することにより目指すべき姿をわかりやすく表現することができました。

【4期目にあたっての基本施策について】

次に、4期目にあたっての基本施策について申し上げます。

令和3年12月に総務省より示された令和4年度地方財政計画では、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が徐々に緩和され持ち直しの動きがみられる景気の動向などもあり、地方交付税において、出口ベースで前年度比プラス3.5パーセント、6,153億円の増加とするなど、令和3年度を上回る地方の一般財源総額が確保され、歳入総額の40パーセント強を地方交付税が占め、地方交付税に大きく依存している本市としては、ひとまず安堵したところです。

しかしながら、本年2月からのウクライナ情勢等による原材料価格の上昇や金融市場の変動、供給面での制約等のリスクが表面化し

てきたほか、新型コロナウイルス感染症の影響も未だ強く、地方自治体の財政は、今後も厳しい状況が続くものと想定されるところです。

このような情勢下において、健全な財政運営を基調に、北・北海道の中核都市として都市機能の強化を図るため、周辺自治体や関係機関との連携、民間と行政との連携、学校と地域との連携を強化し、ポストコロナを見据えたまちづくりを推進してまいります。

そのため私は、総合計画の基本目標である「市民と行政との協働によるまちづくり」「市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり」「自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり」「地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり」「生きる力と豊かな文化を育むまちづくり」を基本とし、市政の発展に全力を傾注してまいります。

「市民と行政との協働によるまちづくり」では、地域コミュニティの醸成を図るため、コミュニティスクールや地域連絡協議会による地域ぐるみで子どもたちを育てる仕組みの強化、市民との対話によるまちづくりを推進するため、タウンミーティングを積極的に行ってまいります。

陸上自衛隊名寄駐屯地については、さらなる連携強化を図ってま

います。

多様性のある社会の実現に向けて、各種審議会や委員会等の委員女性比率の向上、外国人や障がい者の雇用拡大、国際交流などを通じたダイバーシティを推進してまいります。

急速に進化するデジタル技術を活用した行政手続きのオンライン化や業務の効率化などを推進します。またデジタル社会に対応できるよう高齢者等への支援を積極的に行ってまいります。

情報発信については、これまでの手法に加えSNSなど多様な媒体により、市の情報発信をさらに強化し、市民の皆様と共に地域の魅力発信に努めてまいります。

次に「市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり」では、認定こども園の新設とこども発達支援センターの併設、子育て情報のワンストップ化、デジタル化を推進し、子育て環境の充実を図ってまいります。

医療介護については、ハイブリッド手術室の整備など名寄市立総合病院の機能強化、オンライン診療や見守り、医薬品の配送の検討など、さらなるICT連携を進め医療介護の充実を図ってまいります。また、名寄東病院の今後のあり方について検討を行ってまいります。

次に「自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり」では、気候変動に対応した防災体制の充実を図るため、広域防災拠点となる道の駅の整備を検討してまいります。

コンパクトなまちづくりの推進については、名寄市立地適正化計画、名寄市公共施設等再配置計画を基にした具体的議論を進め、公共施設の適正な配置を進めてまいります。

昨年11月に宣言した、ゼロカーボンなよりの実現に向けた具体的な取組を推進するため、地域電力会社を民間と協働で設立し、地域内エネルギー循環の仕組みを目指します。廃棄物の適正な処理については、新たな一般廃棄物中間処理施設（焼却・破碎選別施設）を建設し、ごみ分別の見直しと減量化に努め、環境にやさしいまちづくりを推進してまいります。

デジタル技術の活用により除排雪や公共交通改革を進めてまいります。

公共交通の維持・確保については、引き続きJR宗谷本線の維持、活性化に向けた支援を行ってまいります。

次に「地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり」では、深刻化する人手不足の解消に向け、Uターンの促進、ライフ

スタイルに合わせた提案などにより人材確保に努めてまいります。

観光振興については、本市の歴史文化や食、自然環境を生かしたスポーツツーリズムやアドベンチャーツーリズムを推進してまいります。

中小企業の振興では、名寄市中小企業振興条例の改正に伴い、中小企業への支援策を充実させるとともに、市内事業の官公需受注機会の増大を図ってまいります。

昨年12月に停機した王子マテリア名寄工場敷地の利活用については、再生可能エネルギーを活用した企業立地の促進、木質バイオマス発電所の誘致、地域木材資源の有効活用を図り発電による廃熱を活用した事業を検討します。さらに、物流拠点施設の誘致を進めてまいります。

地域経済の循環では、「地域通貨」導入に向け民間と協働で推進してまいります。

農林業の振興では、担い手確保や農業法人化への支援、森林環境譲与税を活用した森林資源の有効活用と人材育成を図ってまいります。

最後に「生きる力と豊かな文化を育むまちづくり」では、義務教育施設について智恵文小中学校（義務教育学校）の整備・開校、名

寄中学校、名寄東中学校の整備方針を検討してまいります。

新設高校への支援等については、令和5年度の開校へ向けて支援を強化するとともに、現名寄産業高校キャンパスについて北海道と連携し有効活用を進めてまいります。

名寄市立大学では、助産師課程、大学院設置に向け支援するとともに、独立行政法人化の検討を進めてまいります。

スポーツを通じたまちづくりの推進では、キッズ・ジュニアスポーツの推進や、スポーツを通じた健康・コミュニティづくりを進めてまいります。また、スポーツ団体の発展的統合へ向けて協議を進めてまいります。

冬季スポーツの拠点化へ向けて、2030年の冬季オリンピック、パラリンピックの札幌誘致への活動に積極的に関わり、競技施設改修について検討してまいります。

これまでの本市の歴史を記録し、将来につなげるため名寄市史編さんを進めてまいります。

【結びに】

以上、私の4期目の市政運営にあたっての所信を述べさせていただきましたが、今後とも、「公平・公正」の原則のもと、まちづくりの原点である市民の皆様との対話を積極的に進めながら「自然の

恵みと財産を活かし みんなでつくり育む 未来を拓く北の都市・
名寄」を目指し、全力で市民の皆様への負託に応えてまいり所存で
す。

議員各位並びに市民の皆様におかれましては、今後の市政運営に
一層のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げ、私の4期
目の市長就任にあたりましての所信表明といたします。